

記入例

第63回（令和7年度）北海道優良米生産出荷共励会 推薦調書
「移植栽培部門」・生産グループの部 うるち米 または もち米 部

推薦者 〇〇地区米麦改良協会 会長理事 〇〇 〇夫 印

調書の内容は誤りのないことを確認した

振興局 農業改良普及センター 所長 〇〇 〇平 印

検査（出荷）実績を証明する 北海道農産協会所属

農産物検査員 JA〇〇農産物検査員 〇〇 〇雄 印

(ふりがな) まるまるちょうクリーンまいせいさんくみあい

1 対象者 生産グループの名称 〇〇町クリーン米生産組合

(ふりがな) ほっかいどうまるまるしまるまるまちいちばんにじゅうさんごう

代表者氏名・住所 北海道〇〇市〇〇町1番23号 〇山 〇次

2 経営状況 耕地面積 42.6 ha (注) 田・畑などの合計面積

年次 項目	令和5年	令和6年	令和7年	3カ年の平均
水稲作付面積	36.4ha (40.2)	38.4ha (44.2)	34.4ha (36.2)	36.4ha (40.2)

(構成する生産者の合計面積を記入)

注1) 加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く作付面積。()内はこれらを含む作付面積。

注2) 今年を含む直近3年間。ただしその間、作付不可能の事由がある場合を除く。

3 構成生産者の状況 (戸・人)

	令和5年	令和6年	令和7年
戸数	6	7	7
従事者数	10	11	11

4 耕種概要

(1) 作付品種と栽培法 (構成する生産者の合計値を記入)

年次			令和5年	令和6年	令和7年
項目					
作付面積	品種名	ななつぼし	18.5ha	20.5ha	17.5ha
		そらきりり	ha	ha	5.0ha
		ゆめぴりか	7.5ha	7.5ha	8.5ha
		大地の星	5.4ha	5.4ha	3.4ha
		きらら397	5.0ha	5.0ha	ha
			ha	ha	ha
	合計		36.4ha	38.4ha	34.4ha
うち 直播面積	品種名	大地の星	5.4ha	5.4ha	3.4ha

「大地の星」など低蛋白米生産を目的としない品種や直播栽培等も記入する。しかし(2)以下の技術内容および5の産米出荷成績からは除く。

注) 加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く作付面積。

(2) 堆厩肥等の有機物施用と透排水性改善

年 次			令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
項 目					
堆厩肥施用量kg/10 a			1, 000kg	1, 000kg	1, 000kg
稲わらの処理法	前年産	春鋤込	10%	%	%
	当年産	搬 出	%	100%	100%
		秋鋤込	90%	%	%
土壌改良材kg/10 a	資材名		ケイカル	ケイカル	ケイカル
	施用量		100kg	120kg	120kg
透排水性改善			心土破碎	心土破碎	心土破碎
(備考) 心土破碎とあわせて、毎年溝切りも実施					

注) 「稲わらの処理法」の欄の%は、水稻作付面積に対する割合。

土壌改良材については、具体的製品名を書く。

堆厩肥施用量・土壌改良材施用量については当該グループの代表事例を記入。

(3) 移植時期と栽植密度 (移植時期・栽植密度については当該グループの代表事例を記入)

年 次		令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
項 目				
育苗形式名		成苗ポット	成苗ポット	成苗ポット
移植時期		5月20日～5月30日	5月20日～5月30日	5月18日～5月28日
栽植密度	畦幅 × 株間	33 c m × 13 c m	33 c m × 13 c m	33 c m × 13 c m
	m ² 当たり株数	23.3株／m ²	23.3株／m ²	23.3株／m ²
(備考)				

(4) 施肥

年 次		令和 5 年			令和 6 年			令和 7 年		
項 目		N	P	K	N	P	K	N	P	K
施 肥 (kg/10 a)	全 層	5.6	5.6	5.6	5.6	6.0	6.0	6.0	6.8	6.0
	表 層									
	側 条	2.4	2.4	2.4	2.5	4.0	3.0	2.3	3.7	3.8
追 肥	kg/10 a									
	期 日									

施肥量については当該グループの代表事例を記入

(5) 収穫乾燥方式 (構成生産者の取組比率を記入)

- ・ 連続乾燥 (年～ 年) 【 %】
- ・ 一時乾燥→貯留→仕上げ乾燥 (28年～令和 7 年) 【 90%】
- ・ 遠赤外線乾燥 (28年～ 7 年) 【 10 %】
- ・ 除湿乾燥 (年～ 年) 【 %】

5. 産米出荷成績（構成する生産者の合計値を記入）

年次 項目		令和5年	令和6年	令和7年	3カ年の合計
総出荷数量①	注)1	2,500俵	2,700俵	2,300俵	7,500俵
一等米数量②	注)1	2,500俵	2,700俵	2,300俵	7,500俵
一等米比率②/①		100%	100%	100%	100%
内 高品質米	精米タンパク質含有率6.8%以下仕分対象品種出荷数量	2,000俵	2,300俵	2,000俵	6,300俵
	精米タンパク質含有率6.8%以下	注)3 1,920俵	2,300俵	2,000俵	6,220俵
	精米タンパク質含有率6.8%以下出荷率	96%	100%	100%	99%

注) 1 ①・②は「大地の星」、直播栽培など低タンパク米出荷目的でないもの、加工用米及び規格外米、新規需要米・政府備蓄米を除く出荷数量、一等米比率（ただし酒造好適米は一等米以上のものも含む）。
2 俵数は60kgに換算のこと。
3 高品質米出荷数量は、仕分基準に基づく実績数量とする。ただし、「ゆめびりか」は精米タンパク質含有率7.4%以下、「おぼろづき」は精米タンパク質含有率7.9%以下を高品質米出荷数量とする。
4 施設出荷に係り、高整粒米の自主検データがある場合は資料を添付する。

6. クリーン農業等の取組状況（構成する生産者の合計値を記入）

	令和5年	令和6年	令和7年	3カ年の合計
YES!clean米 取組面積①	7.0ha	15.0ha	20.0ha	42.0ha
有機JAS・特 裁米・環境保全型農 業等取組面積 ②	1.5ha	3.0ha	4.0ha	8.5ha

注) ②は、有機JAS実績面積・特別栽培農産物実績面積・環境保全型農業直接支援対策実績面積の合計とし、各対象制度の取組実績面積は重複しないものとする。
上記①②の面積については加工用米・新規需要米・政府備蓄米面積を含めない

7. クリーン農業を除く病虫害防除の実施状況

病虫害の発生状況を的確に把握し、発生対応型防除に努めている。

①いもち病に関しては、ブラスタムの活用およびほ場の見回りを実施。

②カメムシに関しては、すくい取りによるモニタリングを利用。

8. 経営の観点（低コスト生産及び省力化技術の導入など）に係る取組状況

(別記)

9. 品質向上についての技術的特徴及び目的達成のための努力等（具体的に記載して下さい。）

（枠の範囲にこだわらず、次ページにまたがっても良い）

(1) 土質・土性、透排水性とその改善等

①毎年、全生産者が全ほ場の心土破碎を実施し、透排水性の維持に努め・・・

(2) 水管理（畦補修の割合、幼穂形成期の確認、前歴及び冷害危険期の水深は何cmかなど）

①栽培技術情報を共有し、融雪促進や初期生育向上に取組み、・・・

②毎年、全体の2割程度のほ場を畦補修やほ場毎に幼穂形成期の確認、冷害危険期に水深15～20cm確保するなど・・・

(3) 栽培技術（育苗、耕鋤、施肥、水管理、収穫、乾燥調製など）についての特徴

①施肥管理は、〇〇肥料と△△肥料を全層施肥し・・・

②土壌診断による施肥量の設定、側条施肥による初期生育の促進を図るなど・・・

③玄米判定による適期収穫作業を実施するとともに、低温乾燥による良質米の調製を・・・

④初期生育の促進に向けた基本技術の励行と管理（共同育苗等）

⑤JAや普及センターから随時発信される営農技術情報を活用するとともに、グループ独自に講習会や先進地視察など研鑽に努めている。

10. 特色ある栽培の取組（具体的に記載して下さい。）

①機械の共同購入・共同利用に取組・・・

②基幹品種である「ななつぼし」を中心に、業務用「そらきらり」は省力化を、「ゆめぴりか」は高水準化を追求するなど、意識的にメリハリを・・・

③地域生産基盤の維持と担い手対策として、積極的にICT機器の活用（ドローン薬剤防除、無人ロボットトラクターや自動給水装置の導入）を図っている。

④クリーン栽培技術の拡大を図りつつ、昨年全戸でJGAP認証を受け、持続可能な農業生産を目指している。

⑤環境保持の一環から、特に水田からのメタンガス排出抑制を意識し、通常の乾田化対策は元より特に作期中の中干しを稲の生育を勘案しつつ、できるだけ長めに実施している。

11. 生産グループとしての共同で行っている特徴的・先駆的な取組みの状況等

①JGAPに則り、農薬使用基準やコンタミ防止マニュアルを独自で定め、クリーン農業を推進している。

②水管理、ほ場管理においても共同巡回で効率的に行い、週1回ペースで生育状況や作業状況の確認・共有化を・・・

1 2. 添付書類

(1) 令和7年産米栽培履歴（構成する全生産者分）

以上

上記内容について、第63回（令和7年度）北海道優良米生産出荷共励会実施要領に基づき、一般社団法人北海道農産協会へ提出する事を認めます。

入賞発表、優良事例報告書、会報、ホームページ等で優良事例として生産者の氏名他推薦調書の内容を広報することを認めます。

令和7年 月 日

生産者グループ名称 〇〇町クリーン米生産組合

代表者住所 北海道〇〇市〇〇町1番23号

代表者氏名 〇山 〇次 印

(別記)

経営の観点の記入例

1. コスト低減の取組み

(1) 省資材

- ・ J Aおよび普及センター指導の下で毎年ほ場毎に行っている土壌診断結果に基づき、肥料銘柄の選定、施肥量の調整を実施して、適正施肥・肥料コスト低減に努めている。

(2) 共同利用その他

- ・ 機械・倉庫設備の償却資産の延長を図り、機械修理等については自ら実施し必要最小限の修理コストで機械管理を行っている。
- ・ 低コスト生産を目的として、乾燥調製施設、コンバイン、ドローン等の共同利用が各地区で行われている。乾燥調製においては、4施設あり、11戸1法人が共同利用している。

2. 省力化の取組み ※導入実績があった場合

- ・ 労働力の減少と面積拡大のより、R元年より密播中苗方式を50%導入し、省力化と育苗コストの低減を実現した。また、同方式の導入により作業期間が分散され、労働競合を回避することにもつながっている。
- ・ 本年より薬剤のドローン防除や無人ロボットトラクターの運用も一部開始した。